

統合国際深海掘削計画（IODP）会議報告書

提出年月日： 平成24年 6月27日

氏名： 石渡 明, 井龍康文, 林田 明, 山本啓之, 長谷川 卓

所属（職名）： 東北大学（教授）, 東北大学（教授）, 同志社大学（教授）, JAMSTEC（技術研究主幹）, 金沢大学（教授）

会議名	Science Implementation and Policy Committee (SIPCom)
期間	平成24年 6月19日 ~ 平成24年 6月20日
用務地（国・都市）	アメリカ合衆国バージニア州アーリントン
目的	SIPCom 会議参加

会議内容及び報告事項（主に会議での決定・合意事項等について記載してください）

※字数・ページ制限はありませんので、適宜ページを追加してください。

- 1) 前回の SIPCom (2012年1月19~20日, ゴア) の議事録を承認した。
- 2) 7月に IODP-MI から提出される FY13 Annual Program Plan (APP) を検討し, 2013年度の事業計画とそれ以降の準備がともに効率よくサポートされることを確認することになった。FY13 APP の提出後, 財務小委員会がその要約と勧告を SIPCom に示し, SIPCom から IODP-MI の Board of Governors および各 agency へ速やかに送付することになる。
- 3) 日本に大規模な荒廃をもたらした 2011年東北地方太平洋沖地震と津波は国際的にも重大な災害であったが, これまでに観測されなかった地球物理学的現象であり, 巨大地震発生帯の試料採取, 計測や観測を行う稀な機会を与えるものであった。SIPCom は, IODP Expedition 343 Japan Trench Fast Drilling Project (JFast) を迅速に推進し大水深の海底を掘削するという技術的挑戦に成功した CDEX 関係者とプロポーザルの提案者を賞賛する。また, 本年7月の JFAST-2 航海で孔内計測システムの設置が完了することを待望している。
この航海が「ちきゅう」の運航計画に悪影響を及ぼさず, 特に南海トラフ地震発生体掘削計画 NanTroSeize がこれまでの計画通り実施されることを心強く感じている。
- 4) SIPCom は, PEP あるいは OTF にあるプロポーザルが Science Plan に明示されている挑戦課題にどのように言及あるいは関連しているのか, 定量的な状況（添付資料1）を示した Dick Kroon と Michiko Yamamoto に感謝する。
- 5) OTF が示した FY14 の掘削スケジュール（添付資料2）を承認した。JR の P-735: South China Sea (CPP) については, PEP の external review の結果によって採否が決定されるという説明があった。
- 6) 現行の proposal guidelines と evaluation criteria を検討するために小委員会（Kroon, Yeats, Becker, Stein, Yamamoto, Divins, Gatliff, Azuma）を設置することになった。現在の PEP でのプロポーザル評価基準に対し, 技術的問題, 科学的要素以外の問題を付け加える方策を検討することが小委員会の任務である。小委員会の報告は 2012年9月1日までに電子メールで SIPCom に提出される。
- 7) 2013年3月までに計画されている7件のワークショップの申請について検討し, 次のように決定した。

Workshop Project on Serpentinization Process and its Implications

申請額\$10,000 の支援を勧告する。ワークショップの成果として掘削目標と掘削地点の候補が挙げられ, プロポーザルが作成されることを期待する。

Advancing our Understanding of Cretaceous Ocean Dynamics by Scientific Ocean Drilling

\$20,000 の支援を勧告する。国際的に広く参加者を確保し, 海洋掘削によって取り組むべき白亜紀の気候システムに関するプロポーザルが作成されるべきである。

Scientific drilling in the Chukchi Sea: Linking North Pacific and Arctic Ocean history

\$20,000 の支援を勧告する。北極海において Chukchi Sea/Bering Sea 海域を対象とする他のプロポーザルの提案者も本ワークショップに関わるべきである。

Drilling an active hydrothermal system of a submarine intraoceanic arc volcano

\$15,000 の支援を勧告する。掘削によって検討できる科学的仮説を明確にし、サイトサーベイと掘削の計画を立てることによって、掘削プロポーザルが準備されることを期待する。

Arctic marine gas hydrates: past present and future occurrence and stability

財政支援要請を認めない。提案者はその目標を既存の掘削プロポーザルに統合する道を探るべきであり、近く開かれる Arctic drilling workshops への参加を考えるべきである。

IODP Deep Biosphere Research: A synthesis of recent investigations, discussion of new research questions, and identification of new drilling targets

\$20,000 の支援を勧告する。IODP に関する微生物研究に焦点を絞り、具体的な IODP の目標が維持されるよう期待する。ワークショップのプログラムをより明確に示すべきである。PEP は下部地殻の微生物研究を重要課題と捉えており、ワークショップの予定を立てる際には PEP からの寄与も考慮すべきである。

Records of geohazards and monsoonal changes in the northern Bay of Bengal- preparation of an IODP drilling proposal

申請額\$8,000 の支援を勧告する。提案される掘削はアジアの巨大デルタにおける古気候、古海洋、古災害（地震およびサイクロン）、さらに人類活動による環境への影響についての高精度記録に焦点を当てるものである。申請者は本計画に用いるプラットフォームが JR なのか、MSP なのか、検討するべきである。

8) SIPCom は、MSP と JR による北極海の科学掘削のための詳細な計画を推進するよう PEP に奨励する。この海域を探索する実行可能な計画を育てるために、科学者、産業界、ICDP を含むすべてのグループを結集することが必要である。

9) Tom Janecek (NSF) から 2013 年以降の IODP のフレームワークについて報告があり、構成図（添付資料 3）が示された。SAS に関しては、次の説明があった。

- ・プロポーザルの評価を行なう PEP の他、Site Characterization Panel と Environmental Assessment Protection and Safety Panel が含まれる
- ・いずれのプラットフォーム・プロバイダにも対応する
- ・国際的な構成とし、メンバーは Program Member Offices が選出する
- ・プロポーザルは PEP から各 Facility Governing Board へ送られる
- ・SIPCom は FY2013 で消滅し、その役割は IODP Forum と Facility Boards に引き継がれる

□SAS 委員の詳しい選出方法や国別の人員配分に関する説明はなかった。

10) IWG+から検討依頼のあった IODP Forum の Terms of Reference について、小委員会 (Quinn, Tauxe, Yeats, Yamamoto, Murray, Stein, Liu) の案を検討し、文言修正を行なった。

備考	
----	--

事務局又は J-DESC へのご要望・コメント等